

あつま

生涯学習だより

発行 厚真町教育委員会 電話 27-2495

主な記事

- ①休校中の子どもたちの活動を支援
- ②厚子連イベント開催/カキ貝の貝がら層
- ③ノーゲームデー取組結果/復元刀を町に寄贈
- ④就学援助案内/定例教育委員会/パークゴルフ場案内/育英資金案内
- ⑤図書室だより
- ⑥放課後子ども教室活動紹介

休校中の子どもたちの活動を支援

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための学校の臨時休校措置が行われる中、子どもたちの自宅での活動を支援する取組が広がっています。

教育委員会では、「厚真こどもひろば特別編～こんなときこそ心と体に栄養を～」として、あつま災害FM特別番組のラジオ放送、けん玉の無料貸し出し、Youtubeを利用したオンライン講座の配信などを行っています。

あつま災害FM（81.4MHZ）では、平日の午前11時半から12時までの30分間、ALTのワンポイント英会話、メッセージや曲のリクエスト、ゲストで町内各小中学校の先生を招いたインタビュー等の特別番組を放送しています。

オンライン講座では、けん玉の技紹介、自宅ですることができる運動の仕方、わらべうたや手遊び歌の紹介、その他様々な動画を配信しています。また、昨年5月に放課後子ども教室の「かけっこ教室」で講師としてお招きした「北風沙織さん」から、厚真の子どもたちに向けた応援メッセージと自宅ですることができるエクササイズ動画を提供していただきました。

青少年センター図書室では、けん玉の貸し出しを行い、返却時に技を見せてくれた方への賞状の配布、放課後子ども教室からも「木枝のフォトフレームキット」の配布、ぬりえの配布等が行われていますので、皆さん、ぜひご活用ください。

問合せ 教育委員会社会教育グループ
TEL 27-2495

あつま災害FM

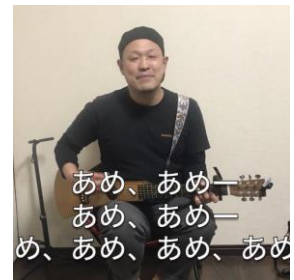


▲この日の放送には小学校の先生4人が参加

オンライン講座



▲北風沙織さんから厚真の子どもたちへのメッセージ



▲歌う保育士「まこらっしゅん」のあそびうた



パーゲーとび
足を開いて閉じてしながら跳びます。
足を開く時に手まで開かないように
注意してください。
◀縄跳びのプロ、日高龍太郎さんの縄跳び動画

おわびと訂正

生涯学習だより2月号（令和2年2月28日発行）、令和元年度読書感想文コンクール表彰式（4ページ）の記事中に大賞作品である大宮幹丞君（中央小）の感想文が掲載されていますが、文末が右記（誤）のように切れてしまいました。申し訳ありませんでした。正しくは右記（正）のようになります。

誤

「しなくてはならないと思っています。そして、自分が大人になった時に、地震より後に産まれた子どもたちにも、自分が体験したことや学んだことを伝えられる

4

正

「しなくてはならないと思っています。そして、自分が大人になった時に、地震より後に産まれた子どもたちにも、自分が体験したことや学んだことを伝えられるような人になりたいです。

4

厚子連 冬遊びイベントを初開催

2月15日(土)、町内で厚真町子ども会育成連絡協議会主催の「あつまのこども集まれ～みんなで遊ぼう冬遊び！」が開催されました。

町内と札幌の幼児、小学生とその保護者ら合わせて33人が参加。雪の上で雪像作りやそり滑りなどを満喫し、子どもたちの笑顔が広がりました。

今回のイベントは胆振東部地震から復興に向けて少しずつ前に進んでいる子どもたちに元気の輪を広げていこうと初めて企画。厚真高校、国立大雪青少年交流の家からもボランティアがかけつけました。

参加した厚真中央小5年の松岡紗奈さんは「雪像づくりが楽しかった。今度はお菓子作りももっとやりたい」と目を輝かせ、尾谷純司会長は「子どもたちの1年を通じた体験活動をサポートするため、今後も町教委と連携し、社会体験活動を継続していきたい」と話していました。

このほか、午前中は総合ケアセンターゆくりで調理実習を行い、豚汁やおにぎりを作って会食を楽しみました。



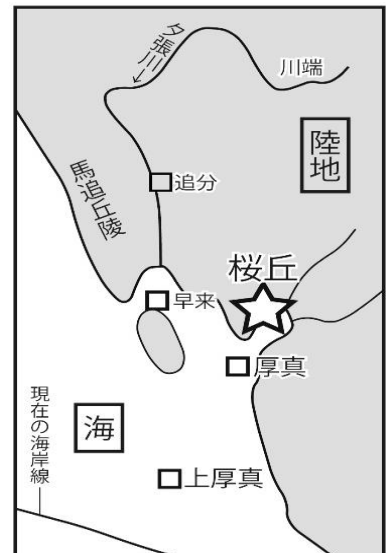
山の上のカキの貝がら層 ～約40万年前の厚真の海～

厚真町の大地は、今から約520万年前以上前の海底に堆積した泥や砂でできた岩盤の上にできています。この、浅い海から陸地へ変化していく段階の地層は桜丘から朝日、上野地区の丘陵の崖面に見ることができます。今回は、この崖について紹介します。

北海道内でも大変貴重な崖面は桜丘と朝日の字境界にあり、厚さが約2mにわたってカキ(貝)が堆積しています。現在の海岸線から約16kmも内陸に入った標高27mの丘の中腹にあり、年代的には今から約40万年前のものです。現在では青森県以南に生息するウネナシトマガイも確認できることから、現在よりも水温が3℃程度高く、海水と淡水が混ざる汽水域であったようです。カキは大きいもので約20cmのものがあり、貝殻の口を上に向けて立ち上がったものもあることから、死んだ貝殻が海流で流されてたまったものではなく、水深20m以内の浅い海での現地性の「カキ礁」(カキの密生地)であったことが伺えます。

町道本郷桜丘線からもカキが堆積した白い崖が見え、見学には大変好条件です。平成24年からは小学校2校の理科の学習で現地に訪れており、気候変動や地震によって隆起してきた大地の成り立ちを肌で感じることができる貴重な崖面となっています。

桜丘地区の
カキ貝の崖面→



40万年前の厚真周辺の地形



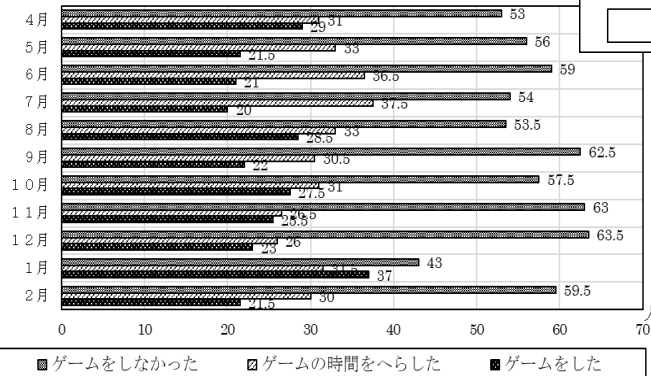
1991「札幌の自然を歩く」に加筆

ノーゲームデー 1年間の取組結果

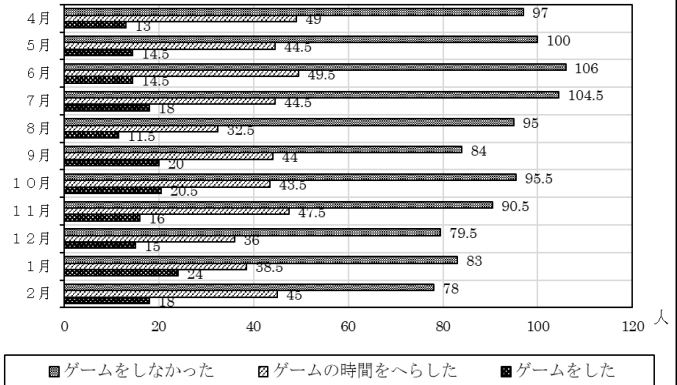
毎月 第1・第3日曜日は
ノーゲームデー

厚真町内 小・中学校、こども園の保護者のみなさま、1年間、ノーゲームデーのご協力ありがとうございました。今年度の取組結果をお知らせします。

ノーゲームデーの取組の様子 (R1 厚真町; 中学生)



ノーゲームデーの取組の様子 (R1 厚真町; 小学生)



年間取組率

小学校 57% (昨年度比-2%)

中学校 73.5% (昨年度比+3.5%)

(取組率とは、ゲームをしなかった率とゲームの時間を減らした率の合計です)

北海道最古

甲冑武具工芸家

上野修路さんが製作・寄贈

800年前の遺跡から出土した腰刀拵を当時の姿に!

2014年に行った厚幌ダム建設に伴う発掘調査で、上幌内2遺跡から約800年前のアイヌ民族のお墓4基が見つかりました。お墓には日本刀や腰刀、和鏡、漆の丸盆など当時としても貴重な品々が納められていました。このうち9歳の女の子のお墓からは保存状態が良い腰刀(こしがたな)2拵が出土しています。

出土した刀は鞘(さや)などの外装、拵(こしらえ)が良くわかる状態で、鞘は刻み目を入れた漆塗りで金を塗った目貫(めぬき)や栗形(くりがた)が残っていました。その年代も源平合戦や元寇といった武士の時代が始まった頃のもので、現存のものは大きな神社に宝刀として納められた数限られたものです。

2017年9月に茨城県在住で国宝や重要文化財の修復、復元にもたずさわる甲冑武具工芸家の上野修路さんに厚真町の出土品を見ていただく機会に恵まれ、日本刀を研究するうえで極めて貴重な

資料であるとの評価を頂きました。あわせて出土した腰刀を、当時の素材や技法で忠実に復元したいとの申し出があり、全面的に協力することとなりました。

そして、約2年間をかけて完成した腰刀の拵は、当時の武士たちが描かれた平安や鎌倉時代の絵図と全く同じ姿で、昨年12月に厚真町へ寄贈していただくこととなりました。現在は、青少年センター図書室に展示しておりますので、約800年前に鎌倉武士から厚真アイヌへもたらされた輝く腰刀を是非、見学にいらしてください。



令和2年度 就学援助のお知らせ

教育委員会では、次のいずれかに該当する世帯に対して学用品費などを援助しています。

●対象

- ①生活保護が停止か廃止になった世帯
- ②町民税が非課税か減免になった世帯
- ③個人事業税や固定資産税が減免になった世帯
- ④国民年金保険料の免除、国民健康保険料が減免、又は徴収が猶予された世帯
- ⑤児童扶養手当を受給している世帯
- ⑥世帯更生資金を利用している世帯
- ⑦公共職業安定所に登録している、日雇い労働の世帯
- ⑧その他経済的に困りの世帯

●援助内容

学用品費、修学旅行費、新入学用品費、校外活動費、学校給食費、体育実技用具費、医療費、PTA会費、生徒会費、クラブ活動費、卒業アルバム代

●提出書類

- ・就学援助費申請書（各学校にあります）
- ・令和元年分源泉徴収票や確定申告書の写し
- ・対象の世帯であることを証明できる書類の写し

●申込み

5月14日【木】までに各学校へお申込みください。小学校と中学校にお子さんが通学している家庭は、それぞれの学校に申請書を提出してください。

- 問合せ 学校教育グループ
☎27-2494

2月定例教育委員会

2月28日に開催された定例教育委員会の会議内容についてお知らせします。

◆報告事項

行事参加等の動向/令和2年度教育費予算案について/令和2年度第1回全員協議会について/新型コロナウイルス対策第1回厚真町教育等関係機関連絡会議について/第2回厚真町いじめ問題対策連絡協議会について/佐藤勝美さん（共栄）から給食センターへメーカーイン寄贈/第40回厚真町スピードスケート記録会/第25回室内ソフトボール大会/読書感想文コンクール（他2件）

◆協議事項

厚真町指定文化財災害復旧事業補助金交付要綱（案）について（1件）

●問合せ

学校教育グループ ☎27-2494

パークゴルフ場 オープン予定日

○上厚真パークゴルフ場
4月15日（水）予定

○本郷いこいの森パークゴルフ場
5月1日（金）予定

厚真町育英資金貸付のご案内

厚真町に住所がある方の子弟で、大学等に進学された方のうち、一定の選考基準を満たす方に学資金の貸付を行っています。

●貸付対象者

- (1) 短期大学、大学、大学院（防衛大学校等を除く）
- (2) 高等専門学校（第4・5学年及び専攻科）
- (3) 専修学校専門課程（2年以上4年以内）
- (4) 国外において(1)～(3)に掲げる学校に相当する教育内容を行う学校

上記(1)～(4)の新規入学者か在校生で、保護者が厚真町内に在住されている方

●選考基準

学校の内容、学業成績、健康状態、学習意欲、ご家庭の経済力等を考慮して決定します。

●貸付月額

月額6万円以内で1万円単位に希望する額

●利息 無利子

※育英資金貸付のほか、近藤奨学金、中村奨学金、加賀谷厚三・明美奨学金があり、これらの奨学金は育英資金の貸付決定者から選考し、給付されます。

●貸付方法

希望される金融機関の口座（保護者等）へ毎月上旬にお振込いたします。

- ・通常貸付：初回貸付は7月中旬（4～7月分）
- ・早期貸付：初回貸付は6月中旬（4～6月分）

※早期貸付の場合、前年（令和元年）の総所得金額が決定した段階で基準を満たさなくなった場合は、返還手続きが必要になります。

●返済方法

卒業後、6カ月の据置期間の後、借用期間の3倍以内の期間で返済していただきます。

●提出書類

- ①申請書（教育委員会にあります）
- ②在学証明書
- ③成績証明書（最後に在学していた学校の証明書）
- ④健康診断書（入学後、学校で受けた結果の写し）
- ⑤課税資料閲覧承諾書（申請書に添付します）

●申込期限

令和2年5月29日（金）まで
（ただし、早期貸付（6月）を希望される場合は5月1日（金）までに申請してください。）

- 申込・問合せ先 学校教育グループ
☎27-2494

図書室だより

青少年センター図書室

TEL 27-2495 (平日)

新型コロナウイルス感染拡大防止にともなう 厚真町公民館図書室の対応について

新型コロナウイルス感染の広がりを防ぐため、北海道立図書館をはじめとする近隣図書館、社会教育施設は臨時休館しています。不特定多数の人間が集まり触れあうことが多いため、感染リスクを減らすことが難しいと判断されたことによるものです。

厚真町公民館図書室では、貸出・返却は通常通りに行っていますが、机・ソファでの閲覧、机での勉強など、図書室に長時間滞在することがないように利用の制限をして開館を継続しています。受験シーズンだったこともあり、勉強に集中できる環境を求めている方には申し訳なかったのですが、利用者の皆さんにご理解いただけたこともあり、滞りなく図書室を運営することができています。利用者の方からは「開館していてよかった」「出かけるところがないから来てみたが、読んでみたい本が見つかったよかった」との感想や励ましをいただきました。ご不便をおかけしておりますが、感染の広がりを防ぐためにも今しばらくご理解とご協力をいただきたいと思っております。

「生活の中のアイヌ文化」 図書展示のお知らせ

4月24日、白老町に民族共生象徴空間「ウポポイ」がオープンするのを記念して、アイヌ文化を中心に図書展示をします。北海道で多くの地名の由来になっているアイヌ語、今年日本ハムファイターズの限定ユニフォームにも採用されたアイヌ文様など、私たちの身近な所で取り入れられているアイヌ文化をご紹介します。

期間：4月1日(水)～26日(日)まで

場所：青少年センター図書室入口

おはなしのびっこを 聞きに来ませんか

乳幼児対象のおはなし会です。絵本、エプロンシアター、手遊び、パネルシアターなど季節に合わせたお話や出し物を30分くらいのプログラムでお届けします。途中で寝てしまっても座っていられなくても大丈夫です。

その月の場所や開催日は図書室だよりでお知らせします。お散歩の途中などお気軽にお立ち寄りください。

■青少年センター 4月の休館日

29日(水曜日) 昭和の日

※新型コロナウイルスの状況により開館時間の変更、または休館する場合がございます。

■青少年センター図書室開館時間

午前9時から午後5時(月・水・金・土・日)
午前9時から午後7時(火・木)

■厚南会館図書室

午前9時から午後5時(月～日)
※毎月5日・20日が土日・祝日の場合は休館となります。

4月のおはなしのびっこは23日(木) 厚真子育て支援センター 10時～です

☆放課後子ども教室☆

マガンや白鳥の渡りが始まり、冬の終わりを感じる今日この頃です。コロナウィルス感染拡大防止のため学校が臨時休校となり、子ども教室も活動休止となっています。毎年、3月には子どもたちと1年の活動を振り返り、特に卒業する6年生へ感謝を伝える時間を設けていましたが、それもできなくなってしまいました。仕方のないことだとはわかっていますが、子どもたちに会えないまま、1年の活動が終わってしまうことは、とても残念です。1日も早く子どもたちに日常が戻ってくることを願います。

今年度の放課後子ども教室は、町内の小学1～6年生の約93パーセントにあたる220名が登録、そのうち年間で1回以上活動に参加した子どもたちは204名を数えました。登録率、参加実数はおおむね例年並みではありますが、2月末時点で、延べ参加者数が3,488名にのぼったことにはとても驚きました。8年目になる子ども教室ですが、3月を前に延べ数が3,400人を超えたのは初めてのことです。通常教室（平日の活動）では154回、約42プログラムを実施。土日、夏冬休みを活用し、地域の産業や人、自然などの資源により深く触れる特別教室は10日間、9プログラムを実施しました。自分の興味関心に合わせて、たくさん子どもたちが参加してくれたことに感謝です。

『自分が育ったまちのことを、自分の体験をもとに、自分の言葉で語れる人材を育てる』をテーマに活動を続けてきた子ども教室。今年度も日々、目の前で起こる出来事に真剣に向き合ってきました。その中で、子ども教室の活動は、子どもたちが自分たちの頭で考え、自らの手で遊び場を作っていく“子どもたちの居場所”だということを、改めて大切にしたいと思いました。ここでの経験が、子どもたちの心の糧となり、子どもたちの未来に還元されるものであるよう、願うとともにこの活動がまちの魅力のひとつとして、大きな役割を果たしていくことをこれからも目指していきたいと思えます。参加してくれる子どもたち、保護者、地域の皆さまのご理解とご協力にお礼を申し上げます。今年度も活動をささえていただき、ありがとうございました。そして、今後もまたご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

